

会 議 録		
会議名	第29回日野市地域公共交通会議	
日時	平成30年 8月22日(水) 9:30から11:30まで	
会場	日野市役所本庁舎504会議室	
出席者	委員	別紙のとおり
	事務局	都市計画課 岡田課長、壁巢課長補佐、伴登主任、高橋主任、川上主事
議題	議事 (1) ミニバス・ワゴンタクシーの見直しについて(協議事項) (2) 新しい交通システムの検討について(協議事項) (3) 連携計画の目標と事業(案)について(協議事項) (4) ワゴンタクシー明星ルートの停留所新設について(協議事項) (5) その他	
公開・非公開の別	公開	
傍聴人の数	1名	
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ(会長)</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) ミニバス・ワゴンタクシーの見直しについて(協議事項) 事務局から説明(資料1)</p> <p><意見、質問等></p> <p>委員</p> <p>利用者のニーズに対応してこれから計画を作っていくことについては賛成する。増便することによって乗車率が緩和され、我々車椅子の利用者が乗りやすくなると感じる。だがここ数年で、車椅子利用者からは、なるべくバスを使いたくないという声を聴く。それは乗り合わせる市民からかけられる声や、声をかけられなくてもプレッシャーを感じるということが背景にあると思う。増便することによってそれがどれだけ緩和されるのか、増便しても緩和されないのか検証して頂きたい。</p> <p>バスの運転手の配慮により乗りやすくなったという声もここ数年では聴く。それはバス事業者が運転手への教育をしてくださっているおかげだと思ふ。だが運転手によってバスの寄せ方やスロープの出し方に差がある。心理的なアプローチに関しては市民の意識を変えなければいけないため時間がかかると思うが、増便による混雑緩和などはすぐに対応できることだと思ふ。増便や経路変更も大切だが、その他の環境改善も考慮して計画に入れていただきたい。</p> <p>⇒たしかに混雑率の高いバスの中では、乗客の気持ちに余裕がない中で、車いす利用者</p>		

への配慮が欠けることが生まれるようなことがあるのは容易に想像できる。増便による混雑緩和を行う中で、そのような内容も視野に入れて検討したいと考えている。乗務員の対応については、増便して乗客が増えると、少なからず車椅子利用者への対応をする機会は間違いなく増える。京王バスからは乗務員への教育を行っていると言っているが、引き続き行っていただき、さらにスキル向上して対応していきたいと考えている。(事務局回答)

委員

乗車をする際、運転手が車体を歩道に寄せきれずに、乗客にご迷惑をおかけしているというお話があるが、声を頂いたときにできる限り具体的に場所を教えていただけると我々の方も注意するポイントを把握でき、運営の改善を図っていけるのでお願いしたい。

ご意見をいただいたように、今回の計画の中で日ごろの対応に関しても改善案を策定できればありがたいと思うのでご協力をお願いしたい。

委員

日野駅など他の車両が乗り入れるロータリーなどで、運転手が悪いのではなく、他の車両があつて寄せられないこともあると聞いている。実際に日野駅であったと聞いている。

委員

基本的な考えとして、ミニバスについては新規路線ではなく既存路線の見直しで対応していくということだが、運行経路の変更については資料の中では市立病院と南平駅に特化して記載しているが、それ以外の場所でも市民要望がきていると思うがどのように考えているか。

⇒ミニバスが走行できる道路が限られていることや、シルバーパスの関係で新規路線ではなく既存路線の経路変更での対応を考えている。この2件の事例についてはミニバスの経路変更で対応を考えており、経路変更によってバス停が増える場合は速達性が損なわれるところではあるが、要望に応えられるところに関しては対応しようと考えている。

新規路線については別の交通モードで考えている。例えば丘陵地ワゴンタクシーで使用している規模の車両を使用して、乗合タクシーなどの形態で路線の新設を考えている。(事務局回答)

委員

ミニバスのシルバーパスについて、現状の路線は適用されているが、路線を新設するとその路線は適用除外になるという認識で良いか。以前入れた時から制度が変わったということか。

⇒シルバーパスについては現在運行している7路線では適用されており、新設路線は適

用除外になる。以前三鷹市や武蔵野市のコミュニティバスに関して、現行のワンコインの料金体系から距離別の体系に変更を検討した際、シルバーパスの適用除外になったという事例がある。新規路線も対象になると東京都のシルバーパスの予算が増加の一途をたどり対応しきれないことも関係している。路線の変更であれば規模にもよるが適用除外にならないと思われる。(事務局回答)

委員

増便や経路変更を考える際に、一部乗車率が高い時間帯があってもやはり赤字である。そこで便や車両を増やすとさらに赤字が増える。市の立場で言えば財政の支出が増えるということになるので、増便といってもなるべくそれは抑えていかなければならない中では、既存の利用客を増やし、少なくとも減らさないようなことが必要なので、経路変更を行う際は利用の多い区間や既存のコアな利用客の利便性を下げないことを考慮して計画して頂きたいと考えている。

⇒コミュニティバスの性質上、採算性だけ考えればいいというものではないことは承知している。経路変更を行うにあたって採算性は無視できないものの、要望に関しては市民の意見を参考にして慎重に検討したいと考えている。

また、要望が叶えられたとしても、他の利用客の利便性が損なわれることもあるので、双方に関して十分検証して計画しようと考えている。(事務局回答)

委員

前回の再編の際はラウンドダイヤを重視して計画したが、今回の計画でラウンドダイヤについてはどのように考えているか。

⇒今年度策定している計画では、平成21年に策定された計画の基本方針はそのまま踏襲していく。ラウンドダイヤについても利用者からは好評を得ているのでそのまま踏襲していく。(事務局回答)

委員

増便については理解されると思うが、その反面、財政面の課題についてはどう考えているか。

⇒資料の中で、ミニバス・ワゴンタクシーともに見直し基準の策定と記載されているが、今まで日野市内ではミニバス7路線、ワゴンタクシー2路線が運行されているが、見直し基準は設けておらず、財政面を考慮すると、見直し基準を定め、利用状況を日々注視しながら実態に応じた形で運行することが必要であると考えている。(事務局回答)

委員

8月3日に視察させて頂いた相模原市でも見直し基準が明確に入っていたが、他市の状況についてわかる範囲で教えていただきたい。

⇒基準の度合いは自治体によって様々あるが、こちらで把握している中では神奈川県を

見ると大概の市は基準を設けている。多摩地区では基準が無い地区は見られる。(事務局回答)

<議決>

会長

- ・ミニバス・ワゴンタクシーの見直しについて異議ないか。
《異議なし》
- ・ミニバス・ワゴンタクシーの見直しについて承認した。

(2) 新しい交通システムの検討について (協議事項)

事務局から説明 (資料2)

<意見、質問等>

委員

相模原市、大和市の乗り合いタクシーは車椅子利用者の乗車は可能か。

⇒日野市の丘陵地ワゴンタクシーと同じ規模の車両を使用しているが、車椅子対応はしていない。小型車両で車椅子スペースの確保となると乗客数とのかねあいもあり課題となっている。他市の事例を見ても、小型車両を使用した公共性を持たした乗合タクシーは車椅子に対応できていないのが実情となっている。(事務局回答)

委員

資料2-2の小型車両を用いた運行形態で、「誰でも利用可」との記載があるが、実際は誰でもではない。これを見るとまだ意識が足りないと感じる。最近タクシー事業者は車椅子対応の新しい車両を導入している。財政面の問題もあると思うが、利用者を増やすという点では、利用できない人をどのように一般の公共交通を利用できるようにするのかという事が課題だと考えている。

⇒資料の「誰でも」という表現について、失礼な点がありお詫びします。

大和市は「のりあい」の他に「やまとん号」というワゴン車を使ったサービスがあり、1ルートあたり4台の車両を使っているが、そのうち1台は車椅子対応をしており、少しでも車椅子に対応しようとしている事例もある。また車椅子に対応はしていないが1人で車両に乗車するのが困難な高齢者の方などをサポートするために添乗員をつけている事例もあり、こういった事例も参考にしたいと考えている。(事務局回答)

委員

バス車両などでは車椅子利用者可能箇所に、折り畳み式の座席が設置されており、不使用時には着座可能な措置がとられている。そういったところで工夫して頂ければ乗車人数の課題も解決できると思うので検討して頂きたい。

委員

大和市のボランティア輸送について、車両の保険やボランティアの運転手の教育について

てはどのようにになっているか。

⇒大和市の「のりあい」については、車両は大和市所有のものを使用しており、保険も大和市中で加入しており、事故が起きた際の乗客の保障についても大和市中が対応。ボランティア運転手に対しての研修については、国交省の福祉運送の教育を受けている。(事務局回答)

委員

大和市のボランティアの参加者人数はどのくらいか、無償は難しいとのことなので有償で行っているのか、1日の運行本数はどの程度か。ボランティアの人が足りなくて運行ができないなどの問題が発生しているか。

⇒ボランティアの参加人数については運転手13名、添乗が25名いる。

白ナンバーで無償運行しており、運賃ではなく会費という扱いで運営している。自治会からの協賛金やバザーの収益も運行費として使用している。

ボランティアがシフトを組んで運営しており、運行できなかったという話は聞いていない。

運行本数については1日に18周運行している。(事務局回答)

委員

今伺ったところだと、運転手が13人いればなんとか運営できているとのことだが、ある程度のサービスを維持するとなると何名程度必要なのか。

⇒運行規模にもより一概には言えない。先日視察した大和市中でも今年度の下半期から住民運転型ではなく、運行を事業者へ委託し有償運行に切り替えることになっている。理由としては、約10年間運行しているが、運転手の後継者が思うように育たなかったということがある。狭隘な道を走っており、車両をこするなど軽微な事故の頻度が前に比べて上がってきており、10年前と比べて体力的にも負担になっているなどの経緯がある。今後市中でも検討段階ではしっかり考えていかなければいけない事柄では。(事務局回答)

委員

今後の交通空白地域対策方針の中で、路線定期運行のワゴンタクシーについては選択肢に入っていないという考えか。

⇒路線定期運行のワゴンタクシーについても選択肢に入る。(事務局回答)

委員

交通空白地域対策方針の中で、小型車両を用いた新たな交通システムによる対応を基本とするとあるが、場合によっては新たな交通空白地域が生まれてそこをミニバスで対応した方がよいケースがあるかもしれない。あえてここで小型車両に限定し選択肢を狭める必要はないと思う。選択肢はどういった形でも対応できるような方針の書き方にした方がいいのではないか。

⇒今回示した資料は（案）であって決まったものではない。只今のご意見の通り最初から小型車両に限定せず、検討していきたい。本件も含め委員から意見を頂いた上で、検証し方針を定めていきたいと考えている。（事務局回答）

委員

シルバーパスについて、新規路線は対象にならないとのことだが、ワゴンタクシーは高齢者が乗るので適用の対象にならないのか。

⇒シルバーパスの適用に関しては、東京バス協会に加盟し指定を受けている事業者に適用されている。ワゴンタクシーも含め新たにシルバーパスを適用させるとなると、市で全額負担しなければいけない。他市の状況も見て判断したいと考えている。（事務局回答）

委員

交通空白地域対策の対策スキームを設け、必要性が高い地域への導入を優先するとの記載があるが、具体的にはどのように行うのか。数値化などされて評価するのか。

⇒相模原市では、乗合タクシー導入の要綱を作成しており、その要件を満たしていれば導入できることになっている。その要綱の中には需要があり、どの程度の利用者数が見込めるか予測が必要になっている。当然利用者が多いほうが、効果が高いため優先的にやらなければいけないといったような仕組みを作っている。

このように判断する基準について今後検討したいと考えている。（事務局回答）

委員

視察の中で、タクシー事業者との関係、特に日野市だと福祉タクシーもあるが、どのようにうまくやっているかわかったら教えていただきたい。

⇒相模原市は中山間地域に位置しており、タクシー事業者があまり存在していない。津久井地区にあるタクシー事業者に運行してもらおう話もあったが、規模が小さいため乗合タクシーの運行は担えないということで、現在は観光バスの会社が運行している。今のところ問題は生じていない。

大和市については、コミュニティバスは他の交通事業者の了承を得ながらやっている。のりあいについては交通会議での案件ではないのでタクシー事業者の了承を得て運行しているわけではない。福祉タクシーとは別のもので住み分けはできている。（事務局回答）

会長

他に意見・質問がなければ、新しい交通システムの検討について、今頂いた意見を踏まえて検討を進めていきたいと思えます。

(3) 連携計画の目標と事業（協議事項）

事務局から説明（資料3）

<意見、質問等>

委員

先ほどの議事（１）（２）は総合連携計画の目標と事業案の中に入っているように思われるが、議事（１）（２）も総合連携計画に合わせて実施するのか、個別に実施するのかどちらか。

⇒議事（１）（２）がこの中に入っており、今年度同様に計画を策定する。本来なら議事（３）を最初に説明すべきでした。順番が前後し先に計画の内容について議論をするような形になってしまい、申し訳ありません。（事務局回答）

委員

日野市で走っているバス車両は全てノンステップだったと思う。このように車いすでも使用できる旨を交通マップなどに反映して、安心して乗れるという事を見えるようにしていただきたい。

⇒その通りであり、本日頂いた意見も含めて計画を策定していきたいと思う。（事務局回答）

委員

目標１の事業１－２市立病院へのアクセス性改善に向けた取り組みの実施について、ミニバス以外も含めた取り組みを考えているイメージか。

⇒事業１－２として挙げたのは昨年度おこなったアンケートでも強く要望されていることである。例えば旭ヶ丘循環路線については市立病院を通るルートへの要望があがったが、片や駅への速達性が損なわれる問題もあり実施の可否については利用者の意向を検証し、検討していきたい。（事務局回答）

会長

他に意見・質問がなければ、連携計画の目標と事業については今頂いた意見を踏まえて検討を進めていきたいと思います。

（４）ワゴンタクシー明星ルートの停留所新設について（協議事項）

事務局から説明（資料４）

<意見、質問等>

特になし

<議決>

会長

- ・ワゴンタクシー明星ルートの停留所新設について異議ないか。
《異議なし》
- ・ワゴンタクシー明星ルートの停留所新設について承認した。

（５）その他（協議事項）

会長

全体を通してご意見、ご質問はありますか。
なければ本日の議案は終了です。

(事務局)

今後は今日頂いた意見を踏まえて、本日お示しさせて頂いた案などについて検証の上、計画の作成をしていきたいと考えております。次回の会議は10月上旬を予定しており、さらに計画を具体化したものを定めていきたいと思っております。これからも引き続き忙しくなりますがよろしくお願いたします。

